

道写協

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)
http://www.dosyakyou.org/

第114号

北海道写真協会会長に 宇佐美暢子氏が就任



宇佐美暢子
北海道写真協会会長

北海道新聞社の人事異動により、北海道写真協会の顧問に、代表取締役社長の村田正敏氏が会長には取締役事業局長の宇佐美暢子氏(右写真)が、副会長には写真部長の川人正善氏がそれぞれ就任されました。

■審査委員長に武藤省吾氏

去る七月十七日開かれた選考委員会(谷口勲夫、片村洋市、斉藤ただし、河江利幸各氏)の意向を受けて、九月二日の実行委員会において第五十八回写真道展の審査員が決定しま

した。

- ・ 審査委員長は武藤省吾氏
- ・ 招聘審査員は谷口勲夫、岡本洋典の二氏
- ・ 奨励賞選考委員は武藤省吾、駒井千恵子、藤井恵子、奥野時夫の四氏と道新写真部長の川人正善氏、今年から新たに加賀谷重雄、辻川和夫の二氏が加わって計七名です。
- ・ 当番審査員は「審査会審査体制Bグループ」の片村洋市、中野芳生、森 哲、大和俊行、美濃英則、向田久善、経塚剛敏、才川稔、嶋田洋子、森田稔、増田輝敏、山本康雄、山本敏雄、坪川輝子、山岸幸雄 高橋正、浪岡和雄、佐藤寿美子、大平博雄の各氏です。総勢二十八名の審査となります。

要項は各支部長さんのところにすでに配布済みですが、不足の場合は事務局にお問い合わせください。また、例年出品料や返却料が締め切りの二月十日までに納入されていない方がいます。(注意ください)。

第五十八回写真道展にむけて



武藤省吾
審査委員長

昨年の第五十七回展から最終審査の決定が、全審員による投票となり、審査委員長の決定権が限定され多数方式となりました。そのためいままでは大きく変わり、審査委員長の意見だけではアドバイスになりません。

私の一般的な写真に対する考え方を参考にしてください。「写真は発見の芸術である」この言葉は誰もが知る名言です。スナップショットだけでなく、写真すべてのジャンルに通じることです。

よい作品を創るには被写体との出会いが大切です。そのためにはシャッターを切る以前の作画面図が重要です。このことは第一部から第三部まで共通の課題です。

第一部「自由」最近では肖像権の問題でスナップ写真は非常に撮りにくくなっています。そこで、自分の家族とか友人を被写体として撮影するのも二つの手段でしょう。特に一部においては写真にも流行があり時代背景が写っていることが肝心です。とにかく作者の独自性ある作風を創ることです。

第二部「観光・産業」観光写真とはなにかも一度考え直してみる必要があります。写真を見てその観光地に行きたくなるようなこれだ

“と言う魂の入った作品を期待します。産業は長い間、景気低迷が続いている状況で大型の産業や開発の写真は望めないと思います。しかし、再度周りを見て、すでに開発された橋や建物などを撮るのも一つの方法です。

海には黒いダイヤ「ナマコ」最近では健康食材として畑には白いダイヤ「ニンニク」があります。これらもヒントです。いろいろなアイデアを考える意外な作品が完成します。

第三部「ネイチャーフォト」この部が新設されて十八回目を迎えます。いままでは優れた作品が多く出品されてきましたが、動物や鳥類が多かったようです。いま一度自分の周りを見直し被写体の再発見をすることです。

今まで道展は植物の作品が少ないようです。被写体を選ぶヒントになればと思います。北海道の自然にはまだまだ多くのモチーフがあり、これは“と思う被写体に出会ったら何度も挑戦し、感性豊かな作者の自信作を期待しています。

〈略歴〉一九六五年写真道展 初入選・二九六八年写真道展科学の部厚生大臣賞・一九七九年写真道展審査委員に推挙される。第四十九回・五十四回展審査委員長(個展一九九三年東京札幌「エルムの杜」、二〇〇二年東京・札幌「石狩晚霞」、二〇〇五年札幌「花衣秋桜」、二〇〇七年東京・札幌「甕れポプラ並木」(写真集出版一九九三年「エルムの杜」・二〇〇二年「石狩晚霞」・二〇〇五年「花衣秋桜・花化粧」(所屬・北海道写真協会副会長・写真道展審査委員・日本写真作家協会会員・写真教室講師